

2026年5月24日（聖霊降臨日、A年）

メッセージ

「聖霊を受けなさい」

（ヨハネによる福音書20:19-23）

司祭ヨセフ太田信三

主イエスの昇天後、弟子たちはどれほど心細かったことでしょうか。十字架の前に逃げ出し、復活の主に出会ったにもかかわらず、なお恐れの中で、戸に鍵をかけて閉じこもっていた弟子たちです。そんな弟子たちのただ中に、ご復活の主イエスは立たれ、「あなたがたに平和があるように」と語りかけられます。そして弟子たちに息を吹きかけて、こう言われました。「聖霊を受けなさい。」

ここで思い起こされるのは創世記です。神は土の塵で人を造り、その鼻に命の息を吹き入れました。すると人は生きる者となりました。今日、主イエスが弟子たちに吹きかけられた息もまた、新しい命の息です。裏切り、逃げ出し、恐れの中に閉じこもっていた弟子たちは、この息＝聖霊によって新しく創り変えられたのです。

聖霊とは、主イエスが私たちに孤独にしておられない、神の愛そのものです。主イエスは別の箇所、聖霊を「弁護者」と呼ばれました。ギリシャ語では「パラクレートス」。傍らにいて、励まし、慰め、支え、導く存在という意味です。人が右に行けば右に、左に行けば左に、いつも並走してくださる方です。

子どもの頃、公園で自転車の練習をしたことを覚えています。最初はふらふらして怖かったのですが、父が横から、後ろから支え、一緒に走ってくれました。転んでも起こしてくれました。そうしているうちに、いつの間にか乗れるようになりました。聖霊とは、まさにあの時の父のような存在です。私たちの信仰も、自分の力だけではすぐにバランスを崩してしまいます。しかし聖霊は、何度転んでも、起こし、支え、並走し、導いてくださるのです。

そして主イエスは、聖霊を与えると同時に、弟子たちに使命を託されました。「誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。」罪とは、神から離れてしまうことです。罪の赦しとは、再び神との交わりの中に生かされることです。つまり弟子たちは、神と人、人と人とを結び直す、和解の務めへと遣わされたのです。弟子たちは聖霊に新たにされ、支えられ、導かれながら、その務めを果たしました。そして、その弟子たちによって各地に教会が誕生しました。それゆえ、聖霊降臨日は「教会の誕生日」と言われるのです。

この聖霊は、あの日の弟子たちだけに与えられたものではありません。二千年の時を超えて、今ここに集う私たちにも与えられています。かつて、「あの」弟子たちを変えてしまった聖霊が私たちにも伴っておられるのです。恐れがあっても、弱くても、何度倒れても、聖霊が必ず伴ってくださいます。今日はその恵みをあらためて喜び、神の平和と和解をこの世界へと届ける者として、聖霊とともに、聖霊によって新たに遣わされてまいりましょう。